

旭川工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	センシング工学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0042		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	機械システム工学科		対象学年		4		
開設期	後期		週時間数		後期:1		
教科書/教材	計測工学入門 (中村邦雄 著, 森北出版株式会社) /プリント (補助資料, 演習問題他)						
担当教員	横井 直倫						
到達目標							
1. 力, 圧力, 温度等の測定方法を説明でき, それらを計測できる。 2. 力, 圧力, 温度等の計測機器を説明でき, それらを使用できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		力, 圧力, 温度等の測定方法を正しく説明でき, それらを導き出せる。		力, 圧力, 温度等の測定方法を説明でき, それらを計測できる。		力, 圧力, 温度等の測定方法を説明できず, それらを計測できない。	
評価項目2		力, 圧力, 温度等の計測機器を正しく説明でき, それらを正しく使用できる。		力, 圧力, 温度等の計測機器を説明でき, それらを使用できる。		力, 圧力, 温度等の計測機器を説明できず, それらを使用できない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 機械システム工学科の教育目標① 学習・教育到達度目標 本科の教育目標③							
教育方法等							
概要	事物や事象の状態や変化を感知 (センシング) するための測定の基本原理・法則およびこれらに基づいた測定器の構造や特徴, 測定時に生じる誤差の要因とその対策, 測定によって得られたデータの整理・処理手法, 測定からデータ処理までの一連の技術である計測技術について学ぶ。						
授業の進め方・方法	生産技術に不可欠な計測の基礎理論と各種測定量の基本的な測定・処理法について, 他教科目での基礎工学の知識および各種実験・実習における計測の実践とを関連づけて理解できるように教示し, 測定器の原理や構造, 取り扱い能力および新しい技術と知識を計測に応用する力を養えるような授業を実施する。						
注意点	計測工学を中心とする授業を行う。計測技術は工学分野すべてにおいて関係していることから, その重要性を認識し, 積極的に学習に取り組んでもらいたい。 ・総時間数45時間 (自学自習30時間) ・自学自習時間(30時間)は, 日常の授業(15時間)に対する予習復習, レポート課題の解答作成時間, 試験のための学習時間を総合したものとする。 ・評価については, 合計点数が60点以上で単位修得となる。その場合, 各到達目標項目の到達レベルが標準以上であることが認められる。 ・前期および後期の16, 17回目の授業については, 補講日または時間割空き時間に実施する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	長さの計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		2週	測長器の精度と誤差要因について説明できるようにする。		測定誤差の原因と種類、精度と不確かさを説明できる。		
		3週	角度の計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		4週	サインバー、角度ゲージ、水準器による角度測定の原理および誤差要因について説明できるようにする。		測定誤差の原因と種類、精度と不確かさを説明できる。		
		5週	形状の計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		6週	プランメーターによる面積測定の原理について説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		7週	形状の計測機器における誤差要因を説明できるようにする。		測定誤差の原因と種類、精度と不確かさを説明できる。		
		8週	中間試験		学んだ知識の確認ができる。		
	4thQ	9週	質量の計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		10週	力の計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		11週	圧力の計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		12週	密度の計測方法と計測機器を説明できるようにし、密度の計算が行えるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		13週	温度の計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		14週	熱量の計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		15週	湿度および含水量の計測方法と計測機器を説明できるようにする。		代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。		
		16週	学年末試験		学んだ知識の確認ができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	機械系分野	計測制御	測定誤差の原因と種類、精度と不確かさを説明できる。		3	後2,後4,後7

				代表的な物理量の計測方法と計測機器を説明できる。	4	後1,後3,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0